

第 31 回コカ・コーラ環境教育賞 最終選考に進む全 17 団体を決定

～最終選考結果は 10 月 11 日(土)にライブ配信～

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団(所在地:東京都渋谷区、理事長:井辻 秀剛、以下当財団)は、環境の保全、啓発、美化および環境教育に関する顕著な活動を顕彰する「第 31 回コカ・コーラ環境教育賞」(以下、本賞)の最終選考へ進む全 17 団体を選出いたしました。

第 31 回 コカ・コーラ環境教育賞 最終選考ノミネート団体: 17 団体 (北から順)

活動普及部門: 9 団体

<小学生: 5 団体>

- ニッコウイワナに学ぶ会 (栃木県日光市)
- 学校法人国本学園 国本小学校 (東京都世田谷区)
- まきのはら水辺の楽校 (静岡県牧之原市)
- NPO 法人環境ボランティアサークル亀の子隊 (愛知県田原市)
- プラネットリーダーズ山内エコクラブ (大阪府大阪市)

<中学生: 4 団体>

- 劇団シンデレラ (愛知県名古屋市)
- 金沢大学附属特別支援学校 (石川県金沢市)
- SEE THE SEA by Rin Ito (大阪府枚方市)
- 北郷 優斗 (宮崎県都城市)

企画・研究推進部門: 8 団体

- 北海道岩見沢農業高等学校 (北海道岩見沢市)
- 市立札幌豊明高等支援学校 リサイクルサービス科 (北海道札幌市)
- AQUA HOPE(宮城県農業高等学校) (宮城県名取市)
- 新潟大学大学院保健学研究科・臨床化学研究室土曜ゼミ (新潟県新潟市)
- 愛知県立安城農林高等学校 土壌研究研修班 (愛知県安城市)
- 岐阜農林高校 食品科学科 食品乾燥班 (岐阜県本巣郡)
- 京都光華女子大学 宮原ゼミチーム アップサイクルでつながる「タバラボ」(京都府京都市)
- 紙漉き文化再生プロジェクト(宮崎県立都城商業高等学校) (宮崎県都城市)

第 31 回 コカ・コーラ環境教育賞 表彰式ライブ配信 URL

<https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/31st/>

最終選考および表彰式は、10月11日(土曜日)、オンライン形式にて開催いたします。同日午前にはプレゼンテーションによる最終選考をおこない、本年度各受賞団体を決定。同日午後15時より、受賞団体の発表をおこないます。

発表の様子は、当財団ホームページ内特設ページ(<https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/31st/>)にて、ライブ配信をおこないます。(15時開始予定)

また、受賞団体、個人を対象に、北海道夕張郡のコカ・コーラ環境ハウスに於いて、全国各地の受賞団体が一同に会して交流を深め、自然を学ぶ体験学習会(2025年12月25日～27日)を実施します。

本賞は1994年の設立以来、環境教育・環境保全活動の促進を目的に、地域に貢献するボランティア活動の助成・支援をおこなっており、これまでの応募団体数は、全国で2,400以上に上ります。

■ 第31回コカ・コーラ環境教育賞 概要

名称	第 31 回コカ・コーラ環境教育賞		
主催	公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団		
協力	読売新聞社		
後援	文部科学省、環境省 ほか		
部門・ テーマ	【活動普及部門】 対象:①小学生およびその指導者 ②中学生およびその指導者 募集テーマ: <u>つかう責任</u> SDGs 12 の「つかう責任」に関する活動、取り組み 【企画・研究推進部門】 対象:高校生、高専生、大学生、大学院生およびそれら学生を活動主体とする非営利団体 募集テーマ: <u>容器、水、気候変動</u> 容器、水、気候変動に着目した環境に関する取組み、研究		
表彰	「活動普及部門（小学生）」		
	文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 30 万円
	優秀賞	2 組（註 1）	助成金 10 万円
	「活動普及部門（中学生）」		
	文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 30 万円
	優秀賞	2 組（註 1）	助成金 10 万円
	「企画・研究推進部門」（高校生以上）		
	文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 50 万円
	優秀賞	3 組（註 1）	助成金 10 万円
註 1）授賞数は応募総数や応募内容に応じて最終的に決定します。該当する団体がないと判断した場合は「授賞なし」とする場合があります。 註 2）活動普及部門 小学生、同部門 中学生、企画・研究推進部門（高校生以上）の 3 つの区分で、それぞれ最も優秀と認められた団体に、文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれかを授賞する予定です。			

第 31 回コカ・コーラ環境教育賞 最終選考ノミネート団体 概要

■活動普及部門(小学生)

●ニッコウイワナに学ぶ会（栃木県日光市）

日光の宝・ニッコウイワナを取り戻せ！

子どもたちが命や資源の大切さを学ぶ環境学習を日光市で展開中。ペットボトルを再利用したふ化観察、土砂や間伐材を活用したイワナの隠れ家づくりなどを通して、SDGs「つかう責任」の実践を地域ぐるみで広げています。

●学校法人国本学園 国本小学校（東京都世田谷区）

課題発見をし、自発的に行動できる本校の子ども達が身近な生活用品の資源循環を通して、CO₂排出量削減、さらにサーキュラーエコノミーサイクルの一端を担う取組を実施した。その過程で、社会課題をジブンゴトとして捉え、子ども達が発案したプロジェクトが学園だけでなく、地域や企業を巻き込み、多くの人々の意識変容を促した。

●まきのはら水辺の楽校（静岡県牧之原市）

山から海までの水に関係する活動を実践すると共に、水域植物である稲を題材に、1年間を通して土づくりから収穫までを実施して、水源の保持・保護を図り、全ての動植物(人含む)が水の恩恵を受けている事を知り、「治水」「利水」「環境」について寄与できる人材を育成している。

●NPO 法人環境ボランティアサークル亀の子隊（愛知県田原市）

「きれいな海を守る心を広げるプロジェクト」として、「西の浜はゴミ箱じゃない！」をテーマに西の浜をきれいにするためのゴミ拾い活動を行う。西の浜クリーンアップ活動毎月1回実施。体験的環境学習「海の環境を学ぶ会」を年に数回行っている。西の浜を通して三河湾、伊勢湾の環境を考え、よりよくしていくための啓発活動、エコツアー渥美を学び、渥美を食べようなどを企画し、バスをチャーターし、ツアーを組んでクリーンアップと学ぶ会(タッチングプール・塩づくりの会)に参加している。

●プラネットリーダーズ山内エコクラブ（大阪府大阪市）

プラネットリーダーズ山内エコクラブは、滋賀と大阪を拠点に、水質調査や生き物観察、清掃活動などを通じて、子どもたち自らが地域の自然や環境と向き合い学ぶ団体です。

琵琶湖から淀川、そして世界へとつながる川の環境を調査しながら、地球規模の環境課題を考え、学び、発信しています。活動の原点には、「水を守ることは命を守ること」という信念があります。この信念のもと、都市部における環境問題、海プラ等のゴミ問題を上流域の仲間と連携しながら、共に考えメッセージ発信を行なっています。

■活動普及部門(中学生)

●劇団シンデレラ（愛知県名古屋市）

「夢と希望と冒険・自然と共に生きる」をテーマとするファミリーミュージカル劇団。

「生きものたちの声を届ける」「SDGsを広める」ことを目標に、森、海、湿地など自然環境の保全や「使う責任」の具体策としての「4Rの推進」や脱炭素を目指した「デコ活」など誰にでもできるSDGsをテーマにオリジナルミュージカルを多数制作・上演している。

●金沢大学附属特別支援学校（石川県金沢市）

「海岸にあるプラスチックやPETボトルごみは、どこからくるのか？」を明らかにするため、2023年から現在まで継続してSDGs14番の学習を行ってきた。今年度は海岸のみならず河川の全流域で清掃活動を行い、ごみの動向を探ってきた。その結果、陸域のごみが河川を通して海に流れ出し、それが海洋ごみになること、排出の原因は、人間であることが明らかになった。



●SEE THE SEA by Rin Ito（大阪府枚方市）

私は「SEE THE SEA」という活動で、子どもだけのプラゴミレンジャーをつくり、ゴミ拾いをしたり、Tシャツやプラごみを使ったチャリティーグッズを作って販売し、売上を寄付したりなどの活動をしています。「つかう責任」を楽しく学べるように、工夫をこらした活動です。

●北郷 優斗（宮城県都城市）

小学3年生から約6年間、自宅の畑で循環型農業を実践しています。ニワトリを活用した「チキントラクター」を開発し、地域の雑草問題解決とCO2削減に貢献してきました。地域の人々との交流を深めながら、環境と地域社会のつながりを生み出すプロジェクトへと発展させています。

■企画・研究推進部門

●北海道岩見沢農業高等学校（北海道岩見沢市）

冬に降り積もる雪で雪山を造成し、その断熱材として粃殻を被覆することで夏まで雪を保存、雪冷熱として活用する。具体的には、雪山の下に通したパイプに水を流し、冷水となった水を冷媒にしてファンで冷風を創り出すことでハウス内を冷却する。また、断熱材として利用した粃殻はペレットに加工し冬場の暖房燃料として活用する。さらに、その燃焼灰はケイ酸質として翌年の水稻肥料に活用し、粃殻の循環利用による周年栽培モデルを実現させる取組である。

●市立札幌豊明高等支援学校 リサイクルサービス科（北海道札幌市）

高等支援学校（特別支援学校）の生徒が将来の就労を目指し、古いOA機器や家電製品などを解体して、再利用できる金属等の素材を発掘、分別し、企業に返却することで資源の再利用に貢献する活動や、札幌市初のPark-PFI事業とコラボレーションし、ペットボトル容器キャップを洗浄・選別したものを再利用する活動など、リサイクルに関わる学習を行っている全国的にもめずらしい学科です。マイクロプラスチック汚染問題について研究している大学生との交流や海水浴場でのゴミ拾い活動などを通して、地球環境問題について考える学習も行っています。

●AQUA HOPE（宮城県農業高等学校）（宮城県名取市）

アクアホープは「田んぼの水をきれいに！」という想いから生まれた高校生チームです。水質を常に調べ続け、肥料の使い方を工夫して水質汚染を防ぎ、未来の子どもたちにきれいな川と安全なお米を残すため、日々挑戦を続けています。

●新潟大学大学院保健学研究科・臨床化学研究室土曜ゼミ（新潟県新潟市）

サステナビリティ戦略のゴールに対して、「1本のPETボトル飲料を大切にし、しっかり飲み切る」というアイデア・選択肢で、「すべての人々の健康的な生活を確保；すべての人々の水と衛生の利用および持続可能性の確保；持続可能な生産消費形態の確保」についての課題を解決したいと構想しています。食品科学的・微生物学的な実験基礎データを蓄積することで、1本のPETボトル飲料を大切にし、「しっかり飲み切る」というアイデアの科学的根拠を提示し、それによって「PETボトル使用量の削減」を目指します。本研究の類の活動は、世界に先駆けて、平時の今のうちに行っておくべき活動と言えるのかもしれませんが。

●愛知県立安城農林高等学校 土壌研究研修班（愛知県安城市）

園芸科・土壌研究研修班では、年間700株のミニトマトを栽培・販売し、食品ロスの低減と残渣の有効活用に取り組んでいます。裂果や規格外品の利活用、茎葉を資源化する研究を進め、地域と連携した循環型農業モデルを実証しています。



●岐阜農林高校 食品科学科 食品乾燥班（岐阜県本巣郡）

本校は実習で規格外の農産物を使った加工品を製造しているが、近年の異常気象により処理しきれないほどの規格外品が生じている。また日本に目を向けると、国内で1年間に発生する食品廃棄物は522万tであり、そのうちの半数以上が野菜類や果実類といった生鮮食品であることが分かっている。科目「食品製造」の中で食品の保存方法として乾燥が有効であることを学んだ私たちは、野菜や果実の規格外品を太陽光で効率よく乾燥させるための「段ボール製ソーラーフードドライヤー」を開発し、その装置を普及することで食品ロスを削減する活動を行うこととした。

●京都光華女子大学 宮原ゼミチーム アップサイクルでつながる「タバラボ」（京都府京都市）

大学が実施する正課外共同学習環境「学Booo(マナブー)」において、「京都の伝統技術や文化を継承する学生発信のものづくり」をテーマに活動している。京都の企業・団体・学会と連携し、環境配慮と伝統継承を両立する製品開発や地域ワークショップを企画、実践し、社会や多様な人々とつなぐ役割を果たすことを目指している。

●紙漉き文化再生プロジェクト(宮崎県立都城商業高等学校)（宮崎県都城市）

都城でかつて盛んだった手漉き和紙文化を再生するため、生徒が楮栽培から紙漉き、商品開発まで一連の活動を行うプロジェクトです。地域の事業所から出た産業廃棄物(焼酎芋のしぼり粕やコーヒー殻)を活用した「都城リジェネ和紙」を開発し、地域企業と連携して持続可能な社会の実現を目指しています。

■日本のコカ・コーラシステム サステナビリティ

原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社を日本の「コカ・コーラシステム」と呼んでいます。

サステナビリティは、私たちの事業のあらゆる側面に取り入れられており、未来の成長に欠かせない要素といえます。これらの取り組みを通じて、コカ・コーラの使命である『Refresh the World. Make a Difference. (世界中にさわやかさを提供し、前向きな変化をもたらすこと)』の実現を目指しています。

日本コカ・コーラ サステナビリティ公式サイト: <https://www.cocacola.co.jp/sustainability>

■公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団

名 称: 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英字名称: The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
許可日: 2007年6月25日(※2011年9月27日 公益財団法人へ移行)
理事長: 井辻 秀剛
所在地: 東京都渋谷区 4-6-3
公式サイト: <https://www.cocacola-zaidan.jp/index.html>
概要: 2007年6月に37年継続していた日本コカ・コーラボトラーズ育英会と14年継続していたコカ・コーラ環境教育財団の事業を継承し、一元的に運営、推進できる母体として設立、2011年9月より公益財団法人に移行しました。心豊かでたくましい人づくり(Healthy Active Life)を理念とし、国際社会が求める青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を通じ、豊かな国際社会の形成及び国際親善に寄与することを目的とし、内閣府に公益認定を受け、事業を展開しています。
主な事業内容: 環境教育、奨学支援、災害復旧・復興支援を柱とした各種社会貢献事業



■雨煙別(うえんべつ)小学校 コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の歴史ある廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、体験型の環境教育プログラムの拠点であり、特定非営利活動法人 雨煙別学校が、自然体験学習を中心とした教育活動を実施しています。2010 年のグランドオープン以来、小学校の宿泊学習をはじめ、大学生の実習やスポーツ合宿、企業研修等、多くの人に利用されています。

公式サイト: <http://uenbetsu.jp/>

